

Ⅵ 参考資料

(2) 国内事例 [その他]

国内の先進事例・参考事例として、以下の事例の概要を紹介する。

表Ⅵ－１－１ 国内の先進事例・参考事例

NO	公園名称	広場名称等	公園種別	公園面積	広場面積	特 色
1)	札幌市立 藤野むく どり公園	—	街区公園	約 750 m ²	—	平成 8 年に開園。草分け的な整備事例。
2)	一関市立 一関遊水 地記念 緑地公園	オーストラリア・ ジャパソ・ フレット・シッ プ・パーク	総合公園	約 14.24ha	約 0.1 ha (図測)	先進国、オーストラリアのノウハウを展開する事例。
3)	藤沢市立 秋葉台 公園	—	運動公園	約 7.7ha	約 0.27ha	複合遊具、ブランコ、スウィング遊具、回転遊具など。令和 3 年 3 月改修整備。
4)	横浜市立 小柴自然 公園	みんなの あそびば	広域公園	約 11.6ha (開園面積)	約 4800 m ²	広々とした空間に、特色のあるユニバーサルデザイン遊具を多数設置。
5)	平塚市 総合公園	「こども クリニック さいとう」みんな の広場	総合公園	約 30.3ha	約 3200 m ²	ネーミングライツを導入。都市公園等コンクールで日本公園緑地協会会長賞を受賞。
6)	三郷市立 インター 南中央 公園	なかよし ひろば	近隣公園	約 1.4ha	約 1500 m ²	広場にはチョークを使って、自由に描けるお絵かきコーナーを設置。
7)	柏市立 柏ふるさ と公園	みんなの 遊び場	近隣公園	約 3.0ha	約 700 m ² (図測)	ユニバーサルデザイン遊具では珍しいターザンロープを設置。
8)	明石市立 17号池 魚住みな 公園	みんな 広場	運動公園	約 6.4ha	約 2400 m ²	遊具広場の側には、着替え室や授乳室、おむつ替え室をそれぞれ完備。
9)	本巣市立 もとまる パーク	遊具エリ ア	近隣公園	約 2.4ha	約 1300 m ²	高速道路利用者の憩いの場としても利用される。草原の波遊具が特徴的。

1) 札幌市立 藤野むくどり公園



藤野むくどり公園とむくどりホーム

■施設概要

公園名	藤野むくどり公園	広場名	—
整備主体	札幌市	管理団体	札幌市 むくどりホームふれあい会
整備年次	平成8年8月開園	公園種別	街区公園
公園面積	745 m ²	広場面積	—
開園時間等	常時開園 無料		
整備の背景 整備概要 等	バリアフリーの公園づくりを目指して、ワークショップ形式で公園設計が進められた。市からの呼びかけに、地域住民の方々をはじめ、福祉ボランティアの方、教育関係者、障がい児のお母さんなど50余名の参加を得て、5回に及ぶ集いが開催され、ここで検討された計画案が具体化されていった。 このワークショップ参加者が中心となって「むくどりホームふれあい会」が結成され、以降の公園をとりまく市民活動は、この会に引き継がれている。		
主なUD 遊具 等	車いすのままで使える砂場 椅子型ハーネス付のブランコ 触れやすい噴水 点字のついた案内板 滑り台や吊り橋などからなる複合遊具 など		
管理運営	公園の近所に住む方が、「公園がバリアフリー公園としてふれあいの輪が継続していくためには、ふれあいの拠点が必要」との考えから、ご自宅を改造して「むくどりホーム」として開放している。ホームは週数回、利用者に開放されていて、様々な人が集い、ふれあいの場となっている。（HP 参照） 会の運営は、市から町内会への公園管理の委託料や共同募金助成金、個人や団体からの寄付に加え、会の活動に賛同する多くのボランティアスタッフによって支えられている。 こうした取組は高く評価され、福祉のまちづくり賞等も受賞している。		

■イメージパース



図面提供：札幌市

■主な遊具・施設



複合遊具 ローラー滑り台は傾斜もゆるく、保護者がこどもを抱えて一緒に楽しめる。



ブランコ 開園当初から椅子型のブランコが設置された。



レイズド砂場



水に触れやすい噴水 小さな子も水にさわりやすいかたちの噴水。水が流れる音も楽しめる。



車いすのまま憩える藤棚



点字表示付き公園案内板

写真提供：札幌市

2) 一関市立 一関遊水地記念緑地公園 子ども広場 オーストラリア・ジャパソ・フレンドシップパーク

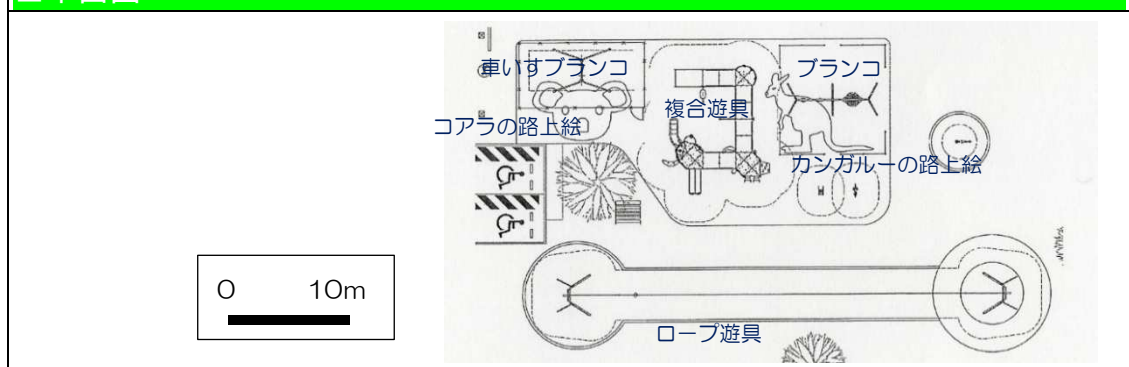


オーストラリア連邦クィーンズランド州セントラルハイランズ市が整備し、一関市へ寄贈された広場である。

■施設概要

公園名	一関遊水地記念緑地公園	広場名	子ども広場 オーストラリア・ジャパソ・フレンドシップパーク
整備主体	一関市・オーストラリア連邦 クィーンズランド州セントラルハイランズ市	管理団体	一関市
整備年次	平成27(2015)年10月	公園種別	総合公園
公園面積	約14.24 ha	広場面積	約0.1 ha(図測)
開園時間等	常時開園 無料		
整備の背景 整備概要 等	広場は、一関市と国際姉妹都市であるオーストラリア連邦クィーンズランド州セントラルハイランズ市によって設置され、一関市に寄贈された。クィーンズランド州では、障がいの有無に関わらず、誰もが同じ空間で楽しむことができる公園整備を推進しており、セントラルハイランズ市には、「オールディレィパーク」として健常者と障がいのある人が一緒に遊べる公園があり、車いすのまま乗れる「車いすブランコ」も設置されている。この「オールディレィパーク」の理念を国際姉妹都市である一関市を通じて、日本に広げてもらいたいという強い思いを乗せて広場が整備された。		
主なUD 遊具 等	車いすブランコ バケット型ブランコ スロープのある複合遊具 ゆりかご(円盤)型ブランコ スプリング遊具 コアラやカンガルーの路上絵 など		
運営管理	車いすブランコは、現在、一関市スポーツ振興課が管理している。車いすブランコとそのフェンスは常時施錠し管理をしているので、利用の際は解錠する必要がある。近くの施設管理事務所で利用申し込みと鍵借用の手続きを行っている。		

■平面図



■ 主な遊具・施設



車いす専用ブランコ 乗るには予約が必要となっている。コアラがデザインされた路上絵がある。



複合遊具 スロープがついており、車いすで登り、滑り台を滑ることができる。設置面はゴムチップ舗装。



バケット型と円盤型のブランコ 体幹の弱いこどもも楽しむことができる。カンガルーがデザインされた路上絵がある。



ロープ遊具

写真提供：一関市

3) 藤沢市立 秋葉台公園



神奈川県内では初となる「誰もが遊べて、誰もが楽しめる広場」として整備。

■施設概要

公園名	藤沢市立 秋葉台公園	広場名	—
整備主体	藤沢市	管理団体	(公財) 藤沢市みらい創造財団
整備年次	令和3(2021)年3月開園	公園種別	運動公園
公園面積	約 7.7 ha	広場面積	約 0.27 ha
開園時間等	常時開園、無料		
整備の背景	秋葉台公園の広場には、ユニバーサルデザインに配慮した複合遊具があったが、老朽化が目立つようになってきたため、周辺遊具も合わせて改修整備を行った。 藤沢市では、令和2年の施政方針で、「共生社会の実現をめざす誰一人取り残さないまち」(インクルーシブ藤沢)を目指しており、そのテーマの一環として、この広場にある既存の遊具を改修し、「誰もが遊べて、誰もが楽しめる広場」へ整備した。 遊具を先行的に整備し、利用していく中で、意見等を伺いながら段階的に整備を進める進化型の広場を目指している。県内では「インクルーシブな公園」のコンセプトをもった初の試みといわれている。 令和3年3月に開園、前年の12月には、広場での遊び等を支援する市民団体も発足した。		
	• 車いすでアクセスでき、楽しめる複合遊具 • 車いすのまま乗れるスウィング系遊具 • 体幹の弱いこどもも乗れる回転系遊具 • 体幹の弱いこどもも乗れる椅子型ハーネス付のブランコ • 交流・休息の空間など		



複合遊具 車いすのままアクセスできるスロープや車いすからの移乗ポイントを設定したアクセシブルな構成。



ブランコ 体幹の弱い子も乗れる椅子型ハーネス付のブランコ。



回転系遊具 車いすからの移乗も可能な設計の複数人乗りの回転遊具。体幹が弱い子も安定して座れる席となっている。外周には藤棚と野外卓やベンチがあり、交流や遊ぶこどもを見守ることができる。



スウィング系遊具 車いすの子も、体幹の弱い子も一緒に乗ることができる。周りの芝生広場は、交流や休息の場となる。

4) 横浜市中 小柴自然公園 みんなのあそびば



横浜市中で初めてのインクルーシブ遊具広場として、特色のあるUD遊具が多数設置されている。

■施設概要

公園名	小柴自然公園	広場名	みんなのあそびば
整備主体	横浜市	管理団体	直営（横浜市：R5 年度現在）
整備年次	令和 5（2023）年 9 月	公園種別	広域公園
公園面積	約 11.6ha（開園面積）	広場面積	約 4600 m ²
開園時間等	4～10 月 8:30～17:30 、 11～3 月 8:30～16:30		
整備の背景 整備概要 等	- 小柴自然公園は、平成 17 年に返還された在日米軍小柴貯油施設の跡地を広域公園として整備された。 - 横浜市中で初めて、インクルーシブ遊具広場となる「みんなのあそびば」が整備された。障がいのある方や、その支援者の団体、専門家、特別支援学校等から意見を聴取し整備に反映させた。また、市民、関係団体、事業者、学識経験者などで構成された「横浜市中福祉のまちづくり推進会議」から意見を伺い、それを踏襲して計画を行った。		
主なUD 遊具 等	複合遊具（滑り台、パネル、星座パネル、コーススペース）、ブランコ（いす型ハーネス付、円盤型）、回転遊具（3 種類）、ウォールライダー、楽器遊具（2 種類）、伝声管、コースドーム		
運営管理	- 公園全体はまだ整備中であるが、公開部分は現在横浜市港南区にある南部公園緑地事務所が利用者対応を含めて直営で管理している。 - みんなのあそびばは閉鎖型管理を行っており、門扉の開閉とともに見回り管理等は委託業者の警備員が行っている。		

■平面図



■主な遊具・施設



複合遊具（スロープ付）

起伏のある地形にあり、丘の上から車いすで複合遊具にアクセスでき、そこから車いすを降りて滑り台を楽しめる。滑り台は介助者がサポートしやすいつくりになっており、車いすをすぐ降ろせる階段が脇に配置されている。複数のパネル遊びも楽しめる。



複合遊具踊り場下（星座パネル）

複合遊具下はゴムチップ舗装となっているが、踊り場の下に「星のマーク」があり、そこから上を見上げると星座パネルが見られる。ある意味隠れコース（心を落ち着かせる）ゾーンになっており、ストレッチャー利用者も楽しめる仕掛けとなっている。



複合遊具すべり台下（コースペース）

幅広滑り台下にも「星のマーク」があり、滑り台から滑ってくる子どもたちのシルエットが見える場所がコース（心を落ち着かせる）スペースとなっている。幼児用のベンチが設置されている。



いす型ハーネス付きブランコ
体幹が弱い子どもが揺れを楽しめる。



円盤型ブランコ
複数人（親子や体幹が弱い子どもと介助者等）と一緒に揺れを楽しめる。



回転遊具①
車いすに乗ったまま、他の人と一緒に回転を楽しめる。



回転遊具②
体幹の弱い子どもも安心して足を延ばして座れる。周りの柵がベンチになっており、保護者が休憩しながら見守れる。



回転遊具③
一人乗り用の回転遊具。体幹の弱い子どもも背もたれにもたれやすい形状の座席となっている。



ウォールスライダー
丘のような配置で滑ったり、這いながら登ったり、寝転んだりして遊べる多機能遊具。上場は縁が高くなっており、車いすが落ちないように配慮されている。



楽器系遊具①
ボンボンたたいたり、くるくる回すと音が鳴る遊具が複数あり、みんなで一緒に演奏を楽しめる。



楽器系遊具②
左記と同コーナーにあるフロアレスで車いすでも一緒に楽しめる複合遊具。付属パネルでは太鼓や鉄琴楽器を楽しむ。

Ⅵ 参考資料



伝声管

貯油施設跡地のパイプラインをモチーフにした伝声管で、色ごとに管がつながっており、管を通して遠くの人とお話ができる。



コーシードーム

コージー（心を落ち着かせる）ゾーンとしての役割と、登はん系の遊びもできる遊具。



案内板

広場出入口に、遊具の位置やインクルーシブ遊具広場利用の趣旨、注意事項が記載されている。



外柵

広場全体を囲った、急な飛び出しに配慮した柵（H1.2m）があり、利用時間が決められた閉鎖型となっている。



休憩スペース

休憩施設は広々としたスペースにあり、座席の数も多く、車いす利用者やその他大勢と一緒に憩える空間。



手洗い

バリアフリー対応の手洗いで、車いす利用者も使用しやすい構造。



トイレ・自転車置場

出入口の前に大型ベッドまで完備されたトイレと自転車置場があり、広場内は自転車進入禁止となっている。

5) 平塚市立 平塚市総合公園 「こどもクリニックさいとう」みんなの広場



(一社) 日本公園緑地協会会長賞を受賞したインクルーシブ遊具広場。

■施設概要

公園名	平塚市総合公園	広場名	「こどもクリニックさいとう」みんなの広場
整備主体	平塚市	管理団体	直営（平塚市）
整備年次	令和 5（2023）年 3 月	公園種別	総合公園
公園面積	約 30.3ha	広場面積	約 3200 m ²
開園時間等	常時開園		
整備の背景 整備概要 等	- 令和 5 年度 第 39 回都市公園等コンクールで「こどもクリニックさいとう」みんなの広場が（一社）日本公園緑地協会会長賞を受賞した。 - みんなの広場は、比較的先進事例として注目度が高いことや、普段から隣接するわんぱく広場等を含めても多くの利用者があることからアピール効果があると考え、ネーミングライツを導入し、愛称を「こどもクリニックさいとう」みんなの広場となった。 - 平塚市は、「市制施行 90 周年記念事業」の一環として、障がい児と健常児が一緒に遊び、幼少期から関わり合える場を提供し、誰もが自然体で助け合い支え合う「一人ひとりが輝く 共生のまち ひらつか」の実現を目指してインクルーシブ遊具を備えた広場が平塚市総合公園に整備された。 - 本広場整備にあたり、障がい者関係団体や特別支援学校、幼稚園、保育園など 116 の団体からの意見を聴取し整備された広場である。		
主なUD 遊具 等	複合遊具（滑り台、登はん系、パネル、コージースペース）、ブランコ（円盤型、いす型ハーネス付、バケット型）、スイング遊具（スロープ付）、回転遊具、楽器遊具、テーブル砂場・砂場（クッション山）、地形遊び、コージーハウス（パネル付）		
運営管理	平塚市が直営で管理している。公園内に管理事務所があり、毎日の巡回、遊具の目視点検等を行っている。みんなの広場内には管理小屋は無い。		

■平面図



■主な遊具・施設



複合遊具（スロープ付）

車いすで頂上付近まで登ることができ、車いすを降りて複数の滑り台を楽しめ、各すべり台は介助者が横からサポートできるつくりになっている。また、車いすが転回できるスペース（W1.5m以上）で多様な種類のパネル（触覚や聴覚）遊びができる。



複合遊具すべり台下（コージースペース）

踊り場の下がコージー（心を落ち着かせる）スペースとなっている。幼児用のスツールが設置されている。



円盤型ブランコ+いす型ハーネス付きブランコ+バケット型ブランコ

円盤型は、複数人（親子や体幹が弱い子どもと介助者等）と一緒に揺れを楽しめるブランコであり、いす型ハーネス付きブランコやバケット型ブランコは、体幹が弱い多様な年齢層（乳幼児、幼児、児童）によって使い分けが可能なブランコとなっている。



スイング遊具（スロープ付）

スロープ付きのシーソーで車いす利用者も車いすのまま、介助者や他の子どもたちと一緒に揺れを楽しむ。



回転遊具

背もたれシートになっており、乗りやすく体幹の弱い子どもも安心して揺れを楽しむ。みんなで回したり、回されたりして遊ぶ遊具。



楽器遊具

手や足で押すと鐘を叩いたような音が出て、車いすに乗ったままでも簡単に遊べる遊具。



テーブル砂場・砂場(クッション山)

通常の砂場沿いにテーブル砂場が設置されており、車いす利用者もそうで無い子どもと一緒に砂遊びを楽しむ。また、砂場内には体幹の弱い子どもも寄りかかったり、乗ったりしながら遊べる芋虫クッションがある。





地形遊び

緩く高低差があり、車いすのまま登ったり、走って遊んだり、起伏を楽しめる場になっている。素材はゴムチップ舗装となっている。



コーシーハウス（パネル付き）

コーシー（心を落ち着かせる）としての役割と、背面側ではパネル遊びやごっこ遊び等も楽しめる。車いすに乗ったまま利用が可能。



案内板

出入口に設置されており、広場内の遊具位置や注意事項が記載されている。また車いす利用者用（写真右側）として、背の低い案内板は触知図となっている。



休憩スペース

パーゴラや縁台、野外卓が設置されており、保護者も安心して見守れる配置となっている。野外卓はテーブル脇に車いすが寄り付きやすいスペースを確保している。

6) 三郷市立 インター南中央公園 なかよしひろば



市内初のインクルーシブ公園であり、床にチョークでお絵かきができる遊び場などがある。

■施設概要

公園名	インター南中央公園	広場名	なかよしひろば
整備主体	三郷市	管理団体	直営（三郷市）
整備年次	令和5（2023）年3月開園	公園種別	近隣公園
公園面積	約 1.4ha	広場面積	約 1500 m ²
開園時間等	常時開園		
整備の背景 整備概要 等	・市内初となるインクルーシブ公園を整備し、地域の多様な人達がお互いの違いに触れ、新たなコミュニティに発展するきっかけづくりを目的とした広場整備を行った。 ・利用者に望まれる公園づくりを目指すため、市と相互協力に関する包括協定を締結している跡見学園女子大学、市内障がい児施設など有識者や関係者の意見を採り入れた。 ・広場にはチョークを使って、文字を書いたり、絵を描いたり、自由にお絵かきを楽しむことができるお絵かきコーナーなどを設置した。		
主なUD 遊具 等	複合遊具（滑り台、パネル、ジャングルジム）、ブランコ（いす型ハーネス付、円盤型）、シーソー、楽器系遊具、レイズド砂場（テーブルタイプ）、お絵かきコーナー		
運営管理	・三郷市が直営で管理している。職員などは常駐していない。 ・市は広場開園後も、跡見学園女子大学と利用促進に係る共同研究を行っている。		

■平面図



■主な遊具・施設



複合遊具（スロープ付）

緩やかなスロープにより、車いすや歩行器でもデッキに登ることができ、滑り台は幅広で介助者がサポートしやすいつくりになっている。また、デッキ（W1.5m 以上）では車いすが転回でき、パネル（触覚や視覚）遊びが楽しめる。



いす型ハーネス付きブランコ

体幹が弱い子どもが揺れを楽しめる。

円盤型ブランコ

複数人（親子や体幹が弱い子どもと介助者等）と一緒に揺れを楽しめる。



シーソー

幅が広く、介助者や他の子どもたちと一緒に乗って遊ぶことができる。スプリングシーソーなので 1 人でも遊べる。



楽器系遊具

5 つの音階がある太鼓で、手のひらで叩いてリズムを取ったり、演奏して楽しめる。視覚障がいの子どもや車いす利用者も楽しめる。



レイズド砂場（テーブルタイプ）

通常の砂場脇にテーブルタイプの砂場が設置されており、車いす利用者もそうで無い子どもと一緒に砂遊びを楽しめる。



お絵かきコーナー

床面にチョークでお絵描きできるようになっており、文字を書いたり、絵を描いたり、こどもたちが自由に描き楽しむことができる。チョークは備え付けの箱に収納されており、自由に取り出してお絵描きできる。脇の収納箱内の清掃道具（モップなど）を使い床を拭くことでチョークを落としている。



レイズド花壇（プランター）

広場内には立ち上がりのある（H=0.7m）の花壇（プランター）があり、車いすが寄り付きやすい形状の花壇となっている。



外柵

周囲の道路や駐車場等への飛び出し防止のため、フェンス（H1.2m）を設置し急な飛び出しに配慮している。



案内板等の注意喚起

案内板は案内のほか、なかよしひろば利用の趣旨が記載されている。また外柵にこどもたちが安全に遊ぶための注意喚起のピラやアンケート依頼なども行っている。



7) 柏市立 柏ふるさと公園 みんなの遊び場



だれもが遊べる遊び場内には、UD 遊具としては珍しいターザンロープを設置している。

■ 施設概要

公園名	柏ふるさと公園	広場名	みんなの遊び場
整備主体	柏市	管理団体	直営(柏市)及び一般財団法人柏市みどりの基金
整備年次	令和5(2023)年4月	公園種別	近隣公園
公園面積	約3.0ha	広場面積	約700㎡(図測)
開園時間等	常時開放		
整備の背景 整備概要 等	- みんなの遊び場は、市の公園で障がいのある子の利用頻度が最も高く、こども発達センターなどに隣接する柏ふるさと公園が選定された。 - 障がいのある子がいる世帯や障がい福祉サービス事業所などの意見を参考に市職員で設計し、個性を大切にする「みんなの遊び場」がオープンした。 - 遊具は、遊具メーカーの提案から障がい福祉施設へのヒヤリングやアンケートを通じて遊具を選定している。 - 市では、この遊び場の開設がきっかけとなり、お互いに思いやる心を育み、そのこどもたちが大人になった時に、障がい者に対する偏見がなくなる社会となることを期待している。		
主なUD 遊具 等	ターザンロープ、ブランコ(親子ブランコ、円盤型、バケット型)、シーソー、迷路遊び		
運営管理	- 柏ふるさと公園は柏市が直営で管理するとともに、市が緑地保全・緑化推進法人(みどり法人)として選定した一般財団法人柏市みどりの基金が、日々公園内の点検や巡回、維持管理等を行っている。みんなの遊び場に管理者は常駐していない。 - 福祉、こども、教育等の多様な関係者と連携し「みんなの遊び場」の在り方を模索するため、柏市社会福祉協議会と連携し、令和5年度から定期的なイベントとして「インクルーシブDAY～障がいのある子もない子も一緒に遊ぼう～」を開催しており、令和6年度も予定している。		

■ 平面図



■主な遊具・施設



ターザンロープ

ハーネス付きシートにより、体幹の弱いこどもも楽しめるターザンロープとなっている。奥の緑丸が土手になっており、そこから手前の青丸の位置までレールウェイで滑り降りる。



対面型ブランコ（写真左側）、円盤型ブランコ

対面型ブランコは、保護者と乳幼児や、体幹の弱いこどもと介助者が向かい合って一緒に揺れを楽しめる。円盤型ブランコは、複数人（親子や体幹が弱いこどもと介助者等）と一緒に揺れを楽しめる。



バケット型ブランコ

乳幼児や体幹が弱いこどもが揺れて楽しめる。



シーソー

幅が広く、介助者や他のこどもたちと一緒に乗って遊ぶことができる。スプリングシーソーなので1人でも遊べる。



迷路遊び

入口と出口の理解を促すことを目的とした迷路が模様としてゴムチップ舗装に描かれている。また車いすのままでも遊ぶことができる。



説明板

この遊び場利用の趣旨や注意事項が記載されている。



舗装

広場全体がゴムチップ舗装となっており、遊具際には、順番待ち位置を示した足跡と、退出する方向を示した足跡があり、安全面や利用者同士による衝突が起こらないよう工夫している。



見守りベンチ

土留めを利用したベンチ、夏は木陰になり、親が子供を見守ることができるよう工夫している。



看板

順番待ちをする場所に遊具の使い方・ルールを示した看板を設置している。

8) 明石市立 17号池魚住みんな公園 みんな広場



障がい当事者団体からの要望により、広場内に着替え室や授乳室、おむつ替え室を完備している。

■施設概要

公園名	17号池魚住みんな公園	広場名	みんな広場
整備主体	明石市	管理団体	神姫トラストホープ株式会社
整備年次	令和5(2023)年4月	公園種別	運動公園
公園面積	約6.4ha	広場面積	約2400㎡
開園時間等	常時開園		
整備の背景 整備概要 等	・農業や生活に利用されていた第17号池。約8haの広大な面積の4/5を運動公園として整備し、2023年4月29日にインクルーシブ遊具を含んだ「みんなにやさしい」をコンセプトとした17号池魚住みんな公園が開園した。 ・みんな広場の計画にあたっては、障がい当事者団体から聞き取った要望事項を基に整備案を募集し、審査を経て整備案を決定している。 ・障がい当事者団体と協議を重ね、その要望を踏まえ、着替え室や授乳室、おむつ替え室をそれぞれ完備している。		
主なUD 遊具 等	複合遊具（滑り台、パネル、登はん、伝声管等）、ブランコ（いす型ハーネス付）、回転遊具、コージードーム（心を落ち着かせる、登はん）、着替え室		
運営管理	・公園の管理運営は公募型プロポーザル方式にて、神姫トラストホープ株式会社がやっている。 ・広場周りには管理用の柵は無い。		

■平面図

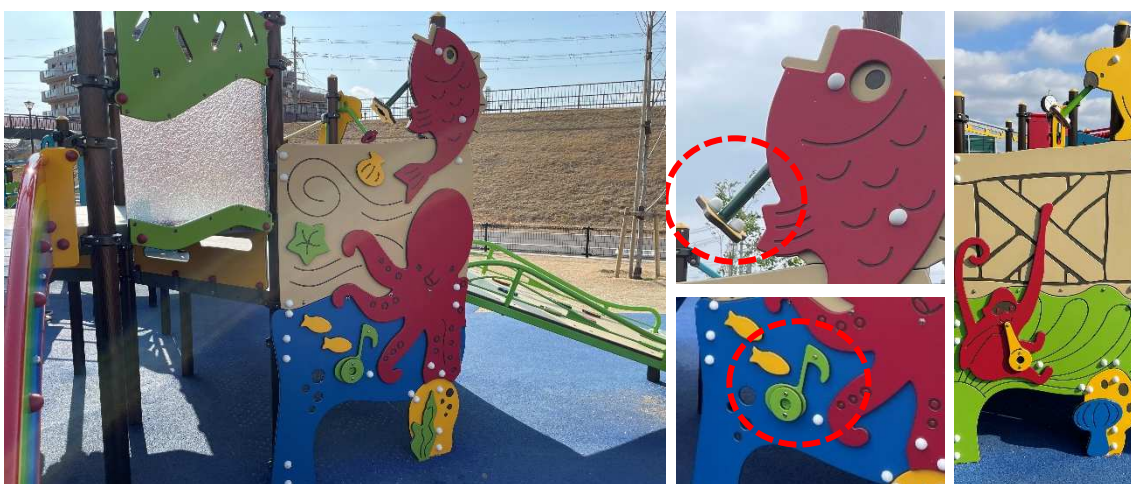


■ 主な遊具・施設



複合遊具（スロープ付）

車いすで頂上付近まで登ることができ、車いすを降りて複数の滑り台を楽しめる。車いすが転回できるスペース（W1.5m 以上）で多様な種類のパネル（触覚や視覚）遊びができる。



複合遊具頂上(伝声管)

複合遊具のパネルの鯛と蛸が話をするイメージ（逆側はオウムとサル）で、鯛の口元と蛸付近の音符が繋がっていて、車いす利用者もそのまま一緒に電話ごっこ（聴覚）が楽しめる。



いす型ハーネス付きブランコ

標準型とともに体幹が弱いこどもも揺れを楽しめる。



回転遊具

車いすからの移乗のしやすさを考慮して設計された回転遊具。体幹の弱いこどもも安心して足を延ばして座れる。



コージードーム
コージ（心を落ち着かせる）ゾーンとしての役割と、登はん系の遊びもできる遊具となっている。



説明板
みんな広場利用の趣旨や注意事項が記載されている。



コミュニケーションボード
うまく言葉を伝えられない子どもが、ボードのイラストや文字を使用して言いたいことや、今どうしたいかを伝えるお手伝いをするサイン。



左から 授乳室、着替え室、おむつ替え室
みんな広場内には、授乳室やおむつ替え室、着替え室が完備されている。着替え室の中には体の大きな人も利用できるように大きなベッドが設置されている。

9) 本巣市立 もとまるパーク 遊具エリア



PA と一体化することで広域的で多様な利用を想定し、インクルーシブ遊具を導入している。

■施設概要

公園名	もとまるパーク	広場名	遊具エリア
整備主体	本巣市	管理団体	株式会社チューキョーP & G・株式会社岐阜造園共同事業体（予定）
整備年次	令和 5（2023）年 7 月	公園種別	近隣公園
公園面積	約 2.4ha	広場面積	1300 m ²
開園時間等	常時開園		
整備の背景 整備概要 等	- 公園名は市民の方から募集、投票によって、「もとまるパーク」に決定。 - 本公園は（仮称）本巣 PA に隣接しており、その PA との連携を目指し、PA の利用者が立ち寄ることができる公園として整備を行った。連結することで一般の公園利用者の憩いの場だけでなく、高速道路利用者の憩いの場として利用されることとなり、広域的な利用者の増加が見込まれている。		
主なUD 遊具 等	複合遊具（滑り台、登はん、パネル、休憩所）、草原の波遊具（登はん、滑り台、コーススペース）、揺動系遊具、顔はめパネル、ミスト噴水		
運営管理	- 本巣市は公園の効率的かつ効果的な管理運営を行うため、Park-PFI の事業者と指定管理者を一体的に公募し、株式会社チューキョーP & G・株式会社岐阜造園共同事業体が公園全体の維持管理を行う予定である。 - 広場周りに柵は無い。 - ミスト噴水は夏期のための営業。雨天や強風時は自動で停止する。		

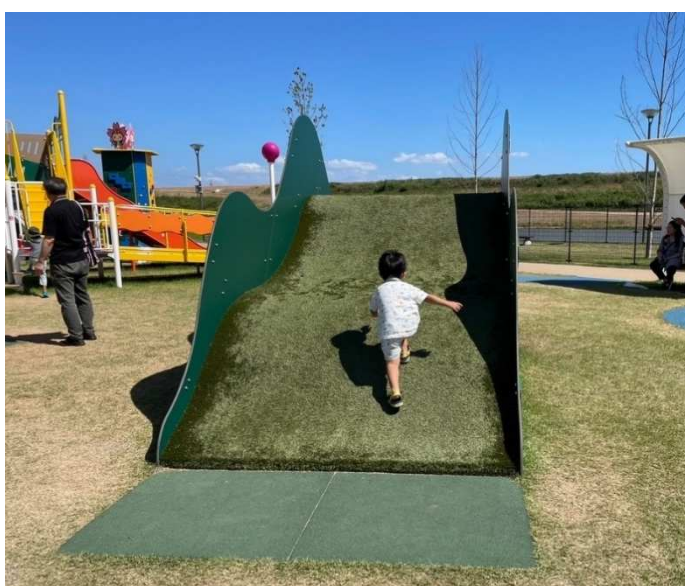
■平面図



■主な遊具・施設

**複合遊具（スロープ付）**

車いすで頂上まで登ることができ、そこから車いすを降りて複数の滑り台で滑ったり、スペースの広い踊り場には日よけ付きのベンチで休憩したり、友達等とのコミュニケーションの場として楽しめる。車いすが転回できるスペース（W1.5m以上）等で多様な種類のパネル（触覚や視覚、聴覚）遊びができる。

**草原の波遊具（登はん、滑り台＋コーススペース付）**

人工芝で出来ている斜面をそれぞれの体幹に合わせて登ったり、滑ったり、寝転がったりをみんなで一緒に楽しめる遊具。

**草原の波遊具下の（コーススペース）**

草原の波遊具の滑り台下部は、車いすでも入るコース（心を落ち着かせる）スペースとなっている。



揺動系遊具

幅が広く、介助者や他のこどもたちと一緒に乗って遊ぶことができる。スプリングシーソーなので1人でも遊べる。



パネル遊具（顔はめパネル）

本巢市のマスコットキャラクターの顔はめパネルが遊具広場内にあり、写真スポットとして活用されている。



水遊び（ミスト噴水）

ある間隔で床から一斉にミストが吹き出し、夏場の熱さ対策とともに、車いす利用者や隣接する池流れでまだ遊べない乳幼児等の水との触れ合いの場として活用されている（夏季限定）。